

令和6年度 第1回

横手市クリーンプラザよこて環境保全委員会

次 第

日時 : 令和7年3月18日(火)

午前10時～正午

場所 : クリーンプラザよこて 2階研修室

1. 開会

2. あいさつ

3. 議事録署名委員の指名

4. 協議

1) クリーンプラザよこて運営状況について 資料1

2) クリーンプラザよこて周辺環境調査結果について 資料2

5. その他

6. 閉会

1) クリーンプラザよこて運営状況について

出典元: 株式会社よこてEサービス

1 環境モニタリング結果

令和6年度の環境モニタリングの期間内における測定の結果は、すべての項目において、法規制値及び保証値を下回り、適正であることを確認している。

(1) 排ガス測定

測定の位置	月	測定の結果					
		ばいじん (g/m ³ N)	窒素酸化物 (ppm)	塩化水素 (ppm)	硫黄酸化物 (ppm)	一酸化炭素 (ppm)	水銀 (μg/m ³)
排ガス (1号炉)	4月	<0.001	58	24	8.6	5	0.88
	5月	—	—	—	9.6	—	—
	7月	<0.001	50	23	11.0	2	1.20
	10月	<0.003	58	23	13.0	2	0.57
	1月	<0.001	34	28	9.0	3	1.00
	2月	—	—	—	7.1	—	—
排ガス (2号炉)	4月	<0.001	57	24	13.0	4	0.72
	5月	—	—	—	13.0	—	—
	7月	<0.001	52	24	11.0	2	0.46
	10月	<0.001	54	9.0	10.0	2	0.10
	1月	<0.001	54	23	9.3	2	1.10
	2月	—	—	—	5.9	—	—
判 定		適正	適正	適正	適正	適正	適正
基準値(保証値)		0.007	80	50	30	20	—
基準値(法規制値)		0.15	250	430	約6,000	100	50

※ばいじん濃度、窒素酸化物、塩化水素についての結果は酸素濃度12%換算値

※一酸化炭素は4時間平均値

※"—"は、法的資格を有する第三者機関による測定をしないことを示す。

※参考(単位解説)

g/m³(グラムパー立法メートル)

1立法メートルあたりに含まれる量(密度)

ppm(ピーピーエム)

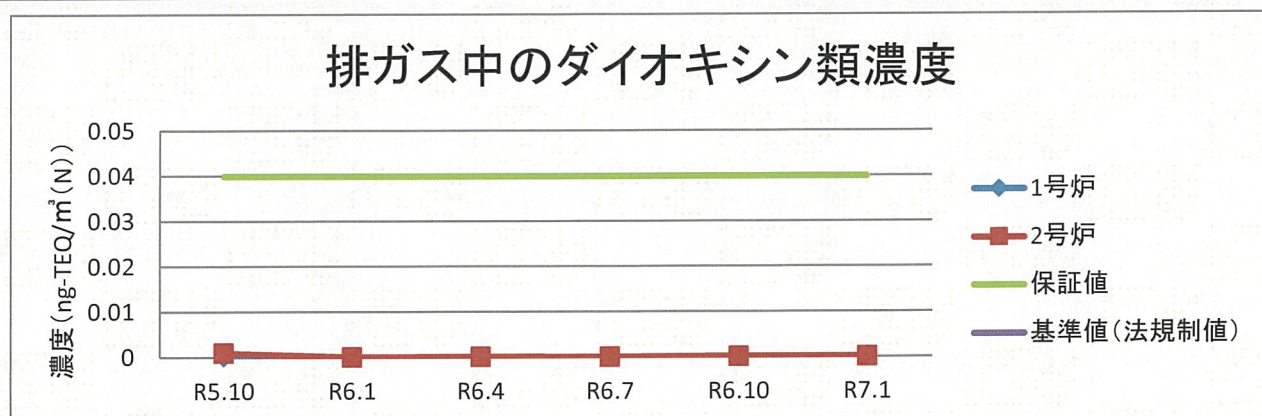
百万分のいくつであるかを表す語。濃度や成分比の単位。百万分率。

μg/m³(マイクログラムパー立法メートル)

1立法メートルあたりに含まれる量(密度)、マイクログラムは1グラムの100万分の1。

(2) 排ガス中のダイオキシン類濃度 (ng-TEQ/g)

	R5.10	R6.1	R6.4	R6.7	R6.10	R7.1
1号炉	0.00017	0.000052	0.000084	0.000045	0.00017	0.00019
2号炉	0.00091	0.00005	0.000084	0.00003	0.000072	0.000072
判定	適正	適正	適正	適正	適正	—
保証値	0.04	0.04	0.04	0.04	0.04	0.04
基準値(法規制値)	5	5	5	5	5	5



※参考(単位解説)

ng-TEQ/m³: ナノグラム ティーイーキュー パー 立法メートル

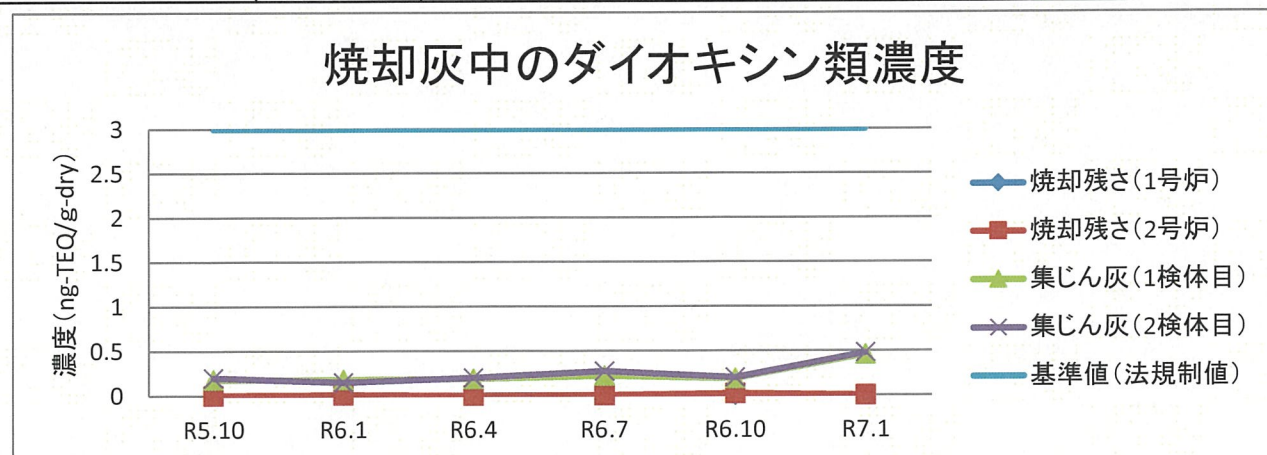
1立法メートルあたりに含まれる量(密度)、ナノグラム=1グラムの10億分の1

TEQ=毒性等量。ダイオキシン類は複数の種類があり、量で比較すると危険度が把握でき

ないことから、最も毒性が強い2, 3, 7, 8-TCDDの毒性に換算して比較するための単位。

(3) 焼却灰中のダイオキシン類濃度 (ng-TEQ/g-dry)

	R5.10	R6.1	R6.4	R6.7	R6.10	R7.1
焼却残さ(1号炉)	0.00058	0.003	0.001	0.00089	0.00094	0.0031
焼却残さ(2号炉)	0.0023	0.007	0.00045	0.00082	0.019	0.0014
集じん灰(1検体目)	0.18	0.18	0.19	0.22	0.19	0.46
集じん灰(2検体目)	0.20	0.15	0.20	0.27	0.20	0.48
判定	適正	適正	適正	適正	適正	適正
基準値(法規制値)	3	3	3	3	3	3



※参考(単位解説)

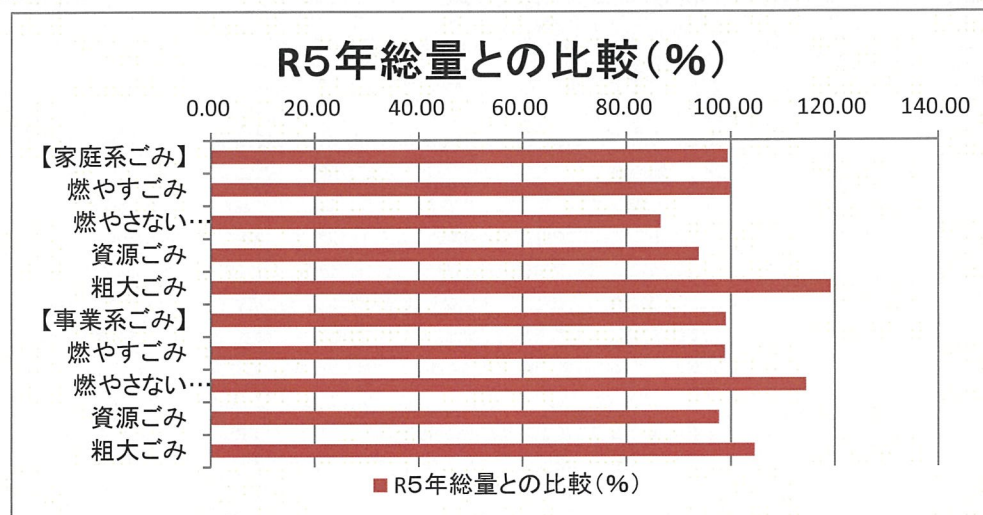
ng-TEQ/g-dry: ナノグラム ティーイーキュー パー グラム ドライ

乾燥させた1グラムの試料に含まれる量(密度)、ナノグラム=1グラムの10億分の1

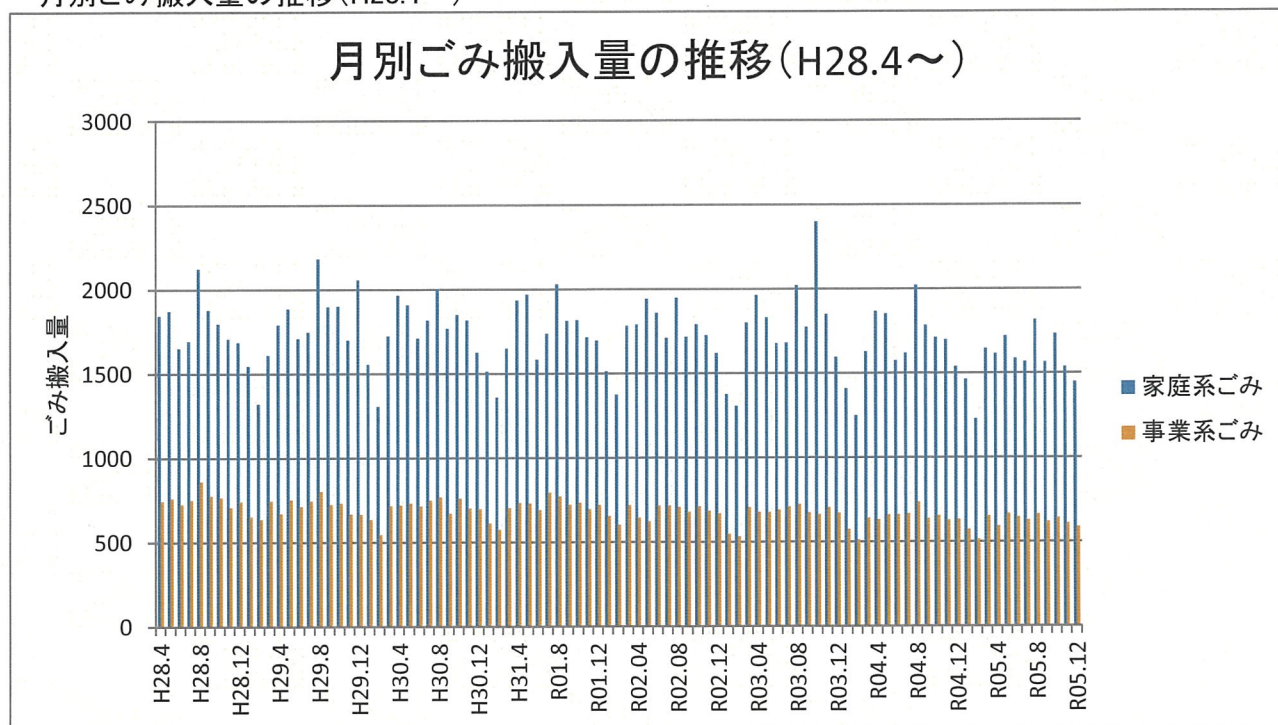
2 令和6年度の運転実績

(1)ごみ搬入量

	R3総量(t)	R4総量(t)	R5総量(t)	R6総量見込(t)	R5年総量との比較
【ごみ搬入量】	28,291.17	27,596.25	25,919.30	25,729.67	99.27
【家庭系ごみ】	20,398.47	19,974.96	18,619.93	18,504.62	99.38
燃やすごみ	15,763.88	15,490.45	14,526.66	14,506.47	99.86
燃やさないごみ	198.57	205.37	202.01	174.70	86.48
資源ごみ	3,580.05	3,495.49	3,223.23	3,026.66	93.90
粗大ごみ	855.97	783.65	638.73	761.16	119.17
【事業系ごみ】	7,892.70	7,621.29	7,299.37	7,225.05	98.98
燃やすごみ	7,568.00	7,290.17	6,974.11	6,890.33	98.80
燃やさないごみ	4.34	4.34	7.22	8.26	114.40
資源ごみ	92.34	83.87	86.72	84.76	97.74
粗大ごみ	228.02	242.91	231.32	241.70	104.49



月別ごみ搬入量の推移(H28.4～)



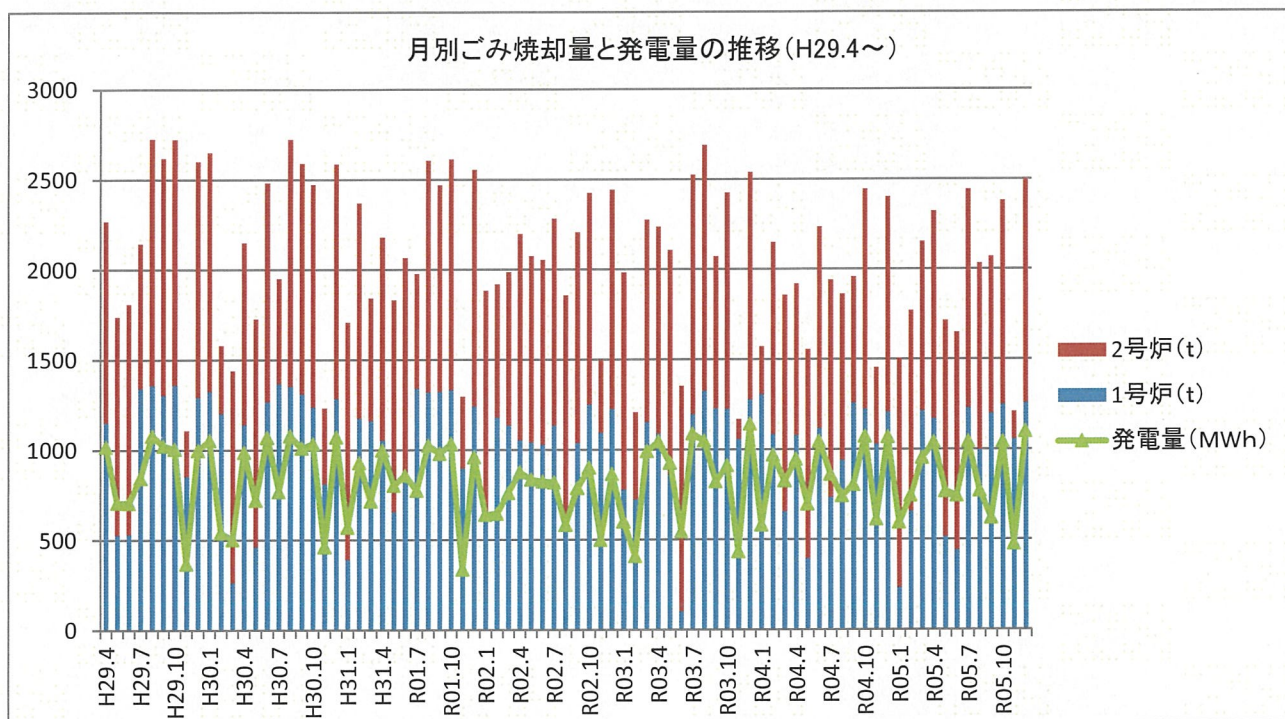
(2) 焼却量及び発電量

焼却炉の定期整備のため焼却炉を停止した時期には、焼却量及び発電電力量が低下している。

焼却量及び発電量

	R6.4	R6.5	R6.6	R6.7	R6.8	R6.9	R6上半期
1号炉(t)	1,157.30	537.03	597.26	1,220.51	851.08	891.72	5,254.90
2号炉(t)	456.54	1,279.77	1,195.69	1,193.85	880.00	1,144.02	6,149.87
発電量(MWh)	722.14	794.27	792.21	1,033.73	688.15	768.46	4,798.96

	R6.10	R6.11	R6.12	R7.1	R7.2	R7.3	R6下半期
1号炉(t)	1,180.12	1,185.82	1,215.31				3,581.25
2号炉(t)	1,144.02	187.71	1,070.94				2,402.67
発電量(MWh)	1,029.22	520.97	974.14				2,524.33



※参考(単位解説)

MWh: メガワットアワー

1時間当たりの発電量を表す単位(1時間当たりに使う電力量も同じ単位を使用)。

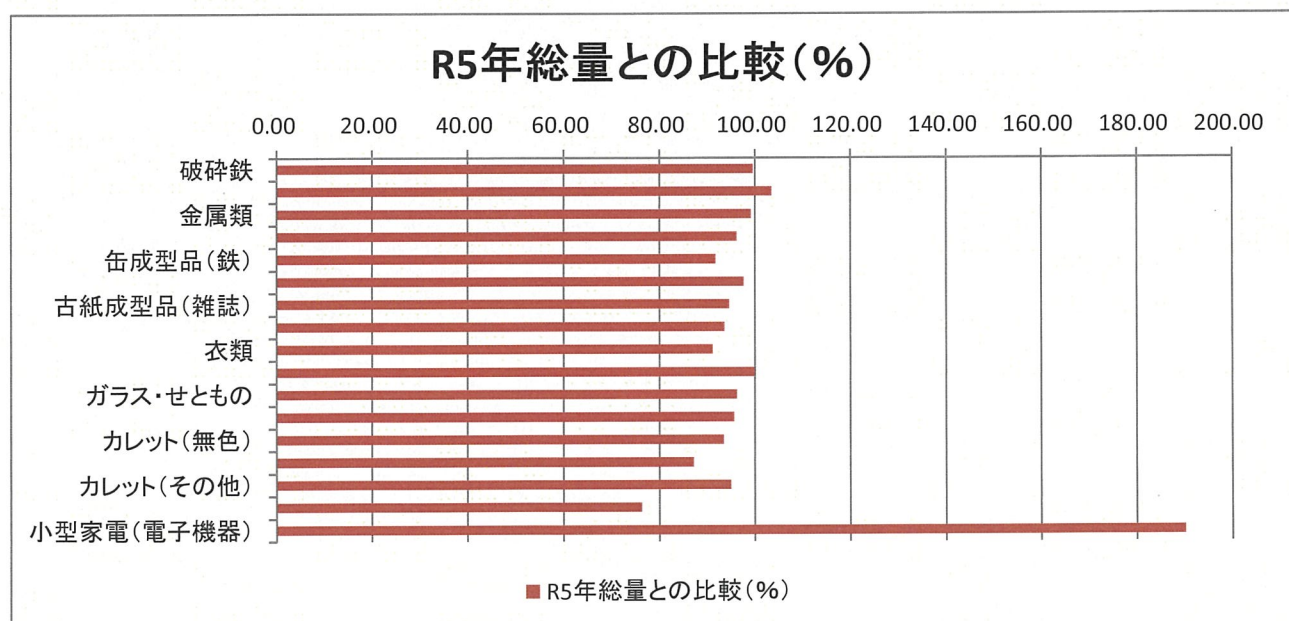
1メガワットは、1,000キロワット。

3 資源物等の搬出量

(1) 資源物搬出量

	R3総量(t)	R4総量(t)	R5総量(t)	R6総量見込(t)	R5年総量との比較(%)
破碎鉄	188.50	173.29	149.93	149.22	99.53
破碎アルミ	17.83	15.35	12.33	12.76	103.49
金属類	255.73	232.32	209.09	207.33	99.16
缶成型品(アルミ)	156.14	147.53	142.74	137.34	96.22
缶成型品(鉄)	83.84	78.62	67.42	61.86	91.75
古紙成型品(新聞)	557.85	486.80	500.50	488.84	97.67
古紙成型品(雑誌)	643.54	649.65	534.63	505.75	94.60
古紙成型品(ダンボール)	376.04	364.73	366.97	343.49	93.60
衣類	78.47	69.03	63.57	57.97	91.19
乾電池・蛍光灯	29.65	38.44	38.28	38.23	99.87
ガラス・せともの	322.41	309.33	277.75	267.34	96.25
生きびん	41.54	32.83	28.47	27.24	95.68
カレット(無色)	225.36	209.73	215.86	201.66	93.42
カレット(茶色)	267.55	255.07	270.10	235.47	87.18
カレット(その他)	114.04	111.99	107.29	101.94	95.01
小型家電(コード類)	7.65	10.84	6.82	5.21	76.39
小型家電(電子機器)	14.71	16.07	9.94	18.90	190.14

⇒ 色塗りの品目は売却収入のある品目



(2) 焼却灰搬出量

	R3総量(t)	R4総量(t)	R5総量(t)	R6総量見込(t)	R5年総量との比較(%)
主灰	1,396.44	1,348.32	1,338.16	1,303.87	97.44
飛灰	1,011.82	917.47	888.22	865.12	97.40

4 令和6年度の改良・修繕実績

	記
令和6年度	4 月 ・特記事項なし
	5 月 ・(5/15～)1号炉定期整備:ボイラ、ストーカ
	6 月 ・(6/1～6/7)1号炉定期整備:ボイラ、ストーカ
	7 月 ・(7/27～7/29)一次破砕機回転刃先肉盛り溶接補修
	8 月 ・(8/23～8/31)熱回収施設の全炉を停止し共通設備の定期整備
	9 月 ・(9/25～9/27)缶圧縮機点検整備
	10 月 ・特記事項なし
	11 月 ・(11/7～11/30)2号炉定期整備:ボイラ、ストーカ ・(11/30～12/2)一次破砕機爪肉盛り補修
	12 月 ・(11/30～12/2)一次破砕機爪肉盛り補修
	1 月 ・特記事項なし
	2 月 ・特記事項なし
	3 月

5 令和6年度再生品の譲渡実績

(1)再生品の無償譲渡について

「粗大ごみ」として搬入された家具類を、廃棄者の許可を得て再生品として提供している。
下表の件数のとおり再生及び無償譲渡を実施している。

年4回の再生品提供会を開催し、再生品は提供会2回に渡り抽選され、抽選漏れ品はその後2回の開催期間に渡り希望者に先着で譲渡される。最終的に希望者のない再生品は処分する。

(単位:件)

			再生	譲渡	処分	翌年度 持越し	実施内容
	平成28年度計		140	107	5	28	
	平成29年度計		202	185	6	39	
	平成30年度計		269	270	3	35	
	令和元年度計		247	258	1	23	
	令和2年度計		161	152	2	30	
	令和3年度計		114	121	5	18	
	令和4年度計		160	132	1	45	
令和5年度	第28回 再生品提供	4月		1			準備期間
		5月	37				抽選申込受付
		6月		43			抽選会・当選品引渡し
	第29回 再生品提供	7月					準備期間
		8月	29				抽選申込受付
		9月		28	2		抽選会・当選品引渡し
	第30回 再生品提供	10月			1	再生品の出展数が少ないため 第30回再生品提供は中止	
		11月		1			
		12月					
	第31回 再生品提供	1月			2		準備期間
		2月	40				抽選申込受付
3月						抽選会・当選品引渡し	
年度計		106	73	5	73		
令和6年度	第32回 再生品提供	4月		1			準備期間
		5月	42	2			抽選申込受付
		6月		26	5		抽選会・当選品引渡し
	第33回 再生品提供	7月					準備期間
		8月	36	1			抽選申込受付
		9月		36	4		抽選会・当選品引渡し
	第34回 再生品提供	10月		0			準備期間
		11月	27	1			抽選申込受付
		12月		29			抽選会・当選品引渡し
	第35回 再生品提供	1月				再生品の出展数が少ないため 第35回再生品提供は中止	
		2月					
		3月					
	年度計		105	96	9		
合計		1504	1394	37	-		

令和6年度

クリーンプラザよこて周辺環境調査結果

報 告 書

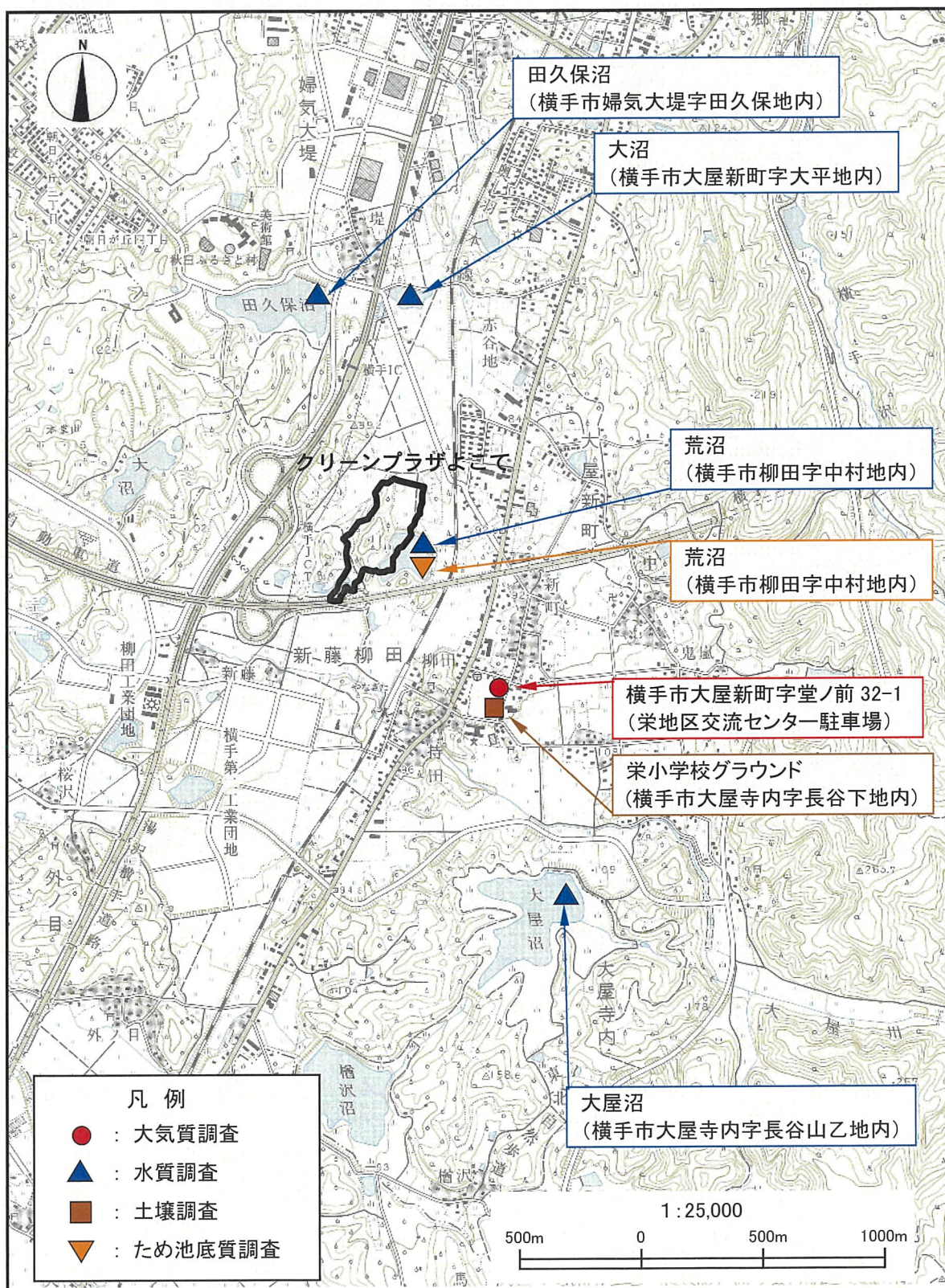
令和7年2月

1. 調査内容

令和6年度におけるクリーンプラザよこて(以降、「施設」という)周辺環境調査は、次のとおり大気質、水質、土壌及びため池底質調査を実施しました。

調査種別	調査実施日	調査地点
大気質調査	令和6年 11月22日～11月28日	横手市大屋新町字堂ノ前32-1 (栄地区交流センター駐車場)
水質調査	令和6年8月21日	大屋沼(横手市大屋寺内字長谷山乙地内) 荒沼(横手市柳田字中村地内) 大沼(横手市大屋新町字大平地内) 田久保沼(横手市婦気大堤字田久保地内)
土壌調査	令和6年11月13日	栄小学校グラウンド(横手市大屋寺内字長谷下地内)
ため池底質調査	令和6年8月21日	荒沼(横手市柳田字中村地内)

調査種別		調査項目	数 量	
			地点数	検体数
大 気 質 調 査	大 気 汚 染 の 状 況	二酸化硫黄(SO ₂)	1	1
		二酸化窒素(NO ₂)		
		浮遊粒子状物質(SPM)		
		塩化水素(HCl)		
		ダイオキシン類		
	地 上 気 象 の 状 況	風向・風速		
		気温		
		湿度		
水質調査		生活環境基準 7 項目	4	4
		ダイオキシン類		
土壌調査		ダイオキシン類	1	1
ため池底質調査		ダイオキシン類	1	2



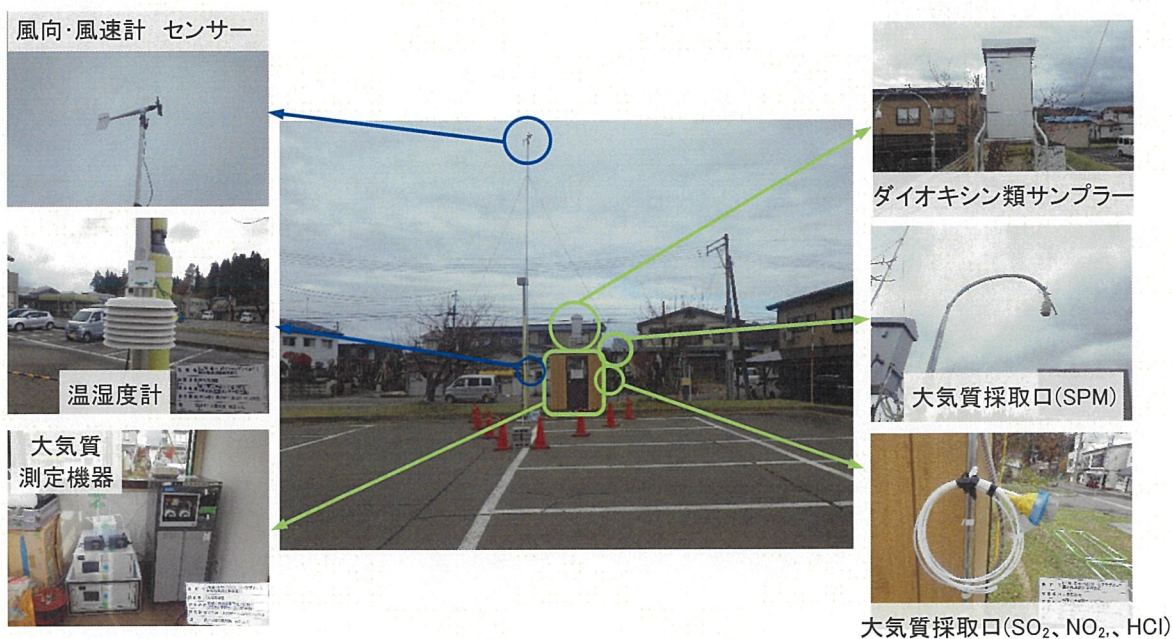
2. 大気質の調査結果

【今年度調査結果】

今年度の調査結果は、全ての項目において環境基準値を満足していました。

調査内容	項 目	期 間 平均値	日 平 均 値		1 時 間 値	
			日最高	日最低	時間最高	時間最低
大 気 質	二酸化硫黄 (ppm)	0.001	0.001 (○)	0.001	0.001 (○)	0.001
	一酸化窒素 (ppm)	0.001	0.002	0.001	0.006	0.001
	二酸化窒素 (ppm)	0.003	0.004 (○)	0.002	0.009	0.001
	窒素酸化物 (ppm)	0.004	0.006	0.003	0.015	0.002
	浮遊粒子状物質 (mg/m ³)	0.007	0.009 (○)	0.004	0.036 (○)	0.001
	塩化水素 (ppm)	<0.002	<0.002 (○)	<0.002	-	-
	ダイオキシン類 (pg-TEQ/m ³)	0.0043 (○)	-	-	-	-
気 象	気温 (℃)	7.0	11.2	4.8	15.5	-0.5
	湿度 (%)	84	91	69	99	49
	風向 (16方位)	S	-	-	-	-
	風速 (m/s)	1.2	2.6	0.5	5.4	0.0

注) () 内の○は環境基準値等以下を表す。



調査状況(栄地区交流センター駐車場)

【経年の調査結果】

平成 23 年度からの調査結果をみると、全ての項目において大きな変化はみられませんでした。

〔栄地区交流センター駐車場〕 施設稼働前

調査場所			栄地区交流センター(旧栄公民館)駐車場				環境基準等
クリーンプラザよこて稼働状況			稼働前				
調査期間			[冬季] 平成23年	[春季] 平成23年	[夏季] 平成23年	[秋季] 平成23年	
調査項目			2/22～28	5/24～30	8/20～26	9/24～30	
大気質	二酸化硫黄 (ppm)	期間平均値	0.003	0.003	0.004	0.001	—
		日平均値最高	0.005 (○)	0.004 (○)	0.005 (○)	0.002 (○)	0.04以下
		1時間値最高	0.022 (○)	0.009 (○)	0.009 (○)	0.004 (○)	0.1以下
	二酸化窒素 (ppm)	期間平均値	0.009	0.002	0.002	0.004	—
		日平均値最高	0.016 (○)	0.003 (○)	0.004 (○)	0.006 (○)	0.04～0.06のゾーン内 又はそれ以下
		1時間値最高	0.044	0.006	0.011	0.018	—
	浮遊粒子状物質 (mg/m ³)	期間平均値	0.017	0.010	0.010	0.013	—
		日平均値最高	0.022 (○)	0.014 (○)	0.018 (○)	0.021 (○)	0.10以下
		1時間値最高	0.066 (○)	0.031 (○)	0.049 (○)	0.187 (○)	0.20以下
	塩化水素 (ppm)	期間平均値	0.002未満	0.004	0.003	0.005	—
		日平均値最高	0.002未満 (○)	0.008 (○)	0.007 (○)	0.011 (○)	0.02以下
	ダイオキシン類 (pg-TEQ/m ³)	期間平均値	0.0054 (○)	0.0063 (○)	0.011 (○)	0.026 (○)	年平均値0.6以下
気象	気温 (℃)	期間平均値	1.5	16.8	23.0	17.2	—
		1時間値最高	13.5	26.2	30.4	26.8	
		1時間値最低	-8.5	7.5	18.5	9.3	
	湿度 (%)	期間平均値	78	71	82	75	—
		1時間値最高	94	96	96	94	
		1時間値最低	42	28	35	31	
	風向 (16方位)	最多	南南東	東南東	東南東	東	—
	風速 (m/s)	期間平均値	1.2	2.0	1.5	1.3	—
		1時間値最高	4.7	6.6	4.7	3.3	

調査場所			栄地区交流センター(旧栄公民館)駐車場				環境基準等
クリーンプラザよこて稼働状況			稼働前				
調査期間 調査項目			{冬季} 平成24年 12/14～20	{冬季} 平成25年 11/28～12/4	{冬季} 平成26年 11/27～12/3	{冬季} 平成27年 11/25～12/1	
大気質	二酸化硫黄 (ppm)	期間平均値	0.000	0.000	0.000	0.000	—
		日平均値最高	0.001 (○)	0.000 (○)	0.000 (○)	0.000 (○)	0.04以下
		1時間値最高	0.002 (○)	0.001 (○)	0.001 (○)	0.001 (○)	0.1以下
	二酸化窒素 (ppm)	期間平均値	0.009	0.007	0.005	0.004	—
		日平均値最高	0.014 (○)	0.011 (○)	0.007 (○)	0.005 (○)	0.04～0.06のゾーン内 又はそれ以下
		1時間値最高	0.037	0.024	0.015	0.017	—
	浮遊粒子状物質 (mg/m ³)	期間平均値	0.013	0.009	0.005	0.005	—
		日平均値最高	0.022 (○)	0.019 (○)	0.008 (○)	0.008 (○)	0.10以下
		1時間値最高	0.051 (○)	0.035 (○)	0.028 (○)	0.033 (○)	0.20以下
	塩化水素 (ppm)	期間平均値	0.002未満	0.002未満	0.002未満	0.002	—
		日平均値最高	0.002未満 (○)	0.002未満 (○)	0.003 (○)	0.006 (○)	0.02以下
	ダイオキシン類 (pg-TEQ/m ³)	期間平均値	0.014 (○)	0.011 (○)	0.017 (○)	0.0064 (○)	年平均値0.6以下
気象	気温 (℃)	期間平均値	0.9	2.4	6.9	4.8	—
		1時間値最高	9.1	8.7	15.6	10.2	
		1時間値最低	-4.2	-2.6	-0.5	0.6	
	湿度 (%)	期間平均値	89	92	86	79	—
		1時間値最高	96	99	95	95	
		1時間値最低	74	56	55	57	
	風向 (16方位)	最多	北西	東南東	南東	北北西	—
	風速 (m/s)	期間平均値	1.1	1.3	1.7	1.4	—
		1時間値最高	4.3	3.9	4.1	4.4	

注) () 内の○は環境基準値等以下、×は環境基準値等超過を表す。

〔栄地区交流センター駐車場〕 施設稼働後

調査場所			栄地区交流センター(旧栄公民館)駐車場					環境基準等
クリーンプラザよこて稼働状況			稼働後					
調査期間			[冬季] 平成28年 11/24～11/30	[冬季] 平成29年 11/23～11/29	[冬季] 平成30年 11/28～12/4	[冬季] 令和元年 11/27～12/3	[冬季] 令和2年 11/26～12/2	
調査項目								
大気質	二酸化硫黄 (ppm)	期間平均値	0.000	0.000	0.001	0.001	0.002	—
		日平均値最高	0.000 (○)	0.000 (○)	0.001 (○)	0.001 (○)	0.002 (○)	0.04以下
		1時間値最高	0.001 (○)	0.001 (○)	0.003 (○)	0.001 (○)	0.002 (○)	0.1以下
	二酸化窒素 (ppm)	期間平均値	0.005	0.009	0.005	0.005	0.003	—
		日平均値最高	0.010 (○)	0.017 (○)	0.009 (○)	0.008 (○)	0.004 (○)	0.04～0.06のゾーン内 又はそれ以下
		1時間値最高	0.022	0.029	0.018	0.014	0.012	—
	浮遊粒子状物質 (mg/m ³)	期間平均値	0.008	0.008	0.013	0.005	0.006	—
		日平均値最高	0.010 (○)	0.015 (○)	0.030 (○)	0.010 (○)	0.009 (○)	0.10以下
		1時間値最高	0.027 (○)	0.032 (○)	0.053 (○)	0.030 (○)	0.021 (○)	0.20以下
	塩化水素 (ppm)	期間平均値	0.002	0.003	0.008	0.002	0.002未満	—
		日平均値最高	0.004 (○)	0.004 (○)	0.013 (○)	0.003 (○)	0.004 (○)	0.02以下
	ダイオキシン類 (pg-TEQ/m ³)	期間平均値	0.025 (○)	0.0068 (○)	0.011 (○)	0.016 (○)	0.0047 (○)	年平均値0.6以下
気象	気温 (℃)	期間平均値	2.3	1.0	5.5	2.3	3.8	—
		1時間値最高	8.5	8.2	18.2	10.9	10.6	
		1時間値最低	-3.4	-7.5	-0.8	-2.9	0.0	
	湿度 (%)	期間平均値	84	90	82	86	84	—
		1時間値最高	93	95	95	98	97	
		1時間値最低	59	64	52	61	50	
	風向 (16方位)	最多	南西	南東	北西	北北西	北西	—
	風速 (m/s)	期間平均値	1.0	0.6	1.0	1.2	1.0	—
		1時間値最高	4.2	3.6	5.8	5.1	3.5	

調査場所			栄地区交流センター(旧栄公民館)駐車場				環境基準等
クリーンプラザよこて稼働状況			稼働後				
調査期間			[冬季] 令和3年	[冬季] 令和4年	[冬季] 令和5年	[冬季] 令和6年	
調査項目			11/25～12/1	11/23～11/29	11/23～11/29	11/22～11/28	
大気質	二酸化硫黄 (ppm)	期間平均値	0.001	0.001	0.001	0.001	—
		日平均値最高	0.001 (○)	0.001 (○)	0.001 (○)	0.001 (○)	0.04以下
		1時間値最高	0.002 (○)	0.001 (○)	0.001 (○)	0.001 (○)	0.1以下
	二酸化窒素 (ppm)	期間平均値	0.003	0.004	0.002	0.003	—
		日平均値最高	0.004 (○)	0.006 (○)	0.004 (○)	0.004 (○)	0.04～0.06のゾーン内 又はそれ以下
		1時間値最高	0.014	0.018	0.014	0.009	—
	浮遊粒子状物質 (mg/m ³)	期間平均値	0.005	0.006	0.006	0.007	—
		日平均値最高	0.009 (○)	0.008 (○)	0.008 (○)	0.009 (○)	0.10以下
		1時間値最高	0.037 (○)	0.031 (○)	0.033 (○)	0.036 (○)	0.20以下
	塩化水素 (ppm)	期間平均値	0.002未満	0.003	0.003	0.002	—
		日平均値最高	0.007 (○)	0.007 (○)	0.005 (○)	0.002未満 (○)	0.02以下
	ダイオキシン類 (pg-TEQ/m ³)	期間平均値	0.0058 (○)	0.011 (○)	0.0039 (○)	0.0043 (○)	年平均値0.6以下
気象	気温 (℃)	期間平均値	5.4	8.7	4.4	7.0	—
		1時間値最高	16.8	19.3	16.3	15.5	
		1時間値最低	0.4	0.0	-0.8	-0.5	
	湿度 (%)	期間平均値	86	77	92	84	—
		1時間値最高	98	98	99	99	
		1時間値最低	39	45	59	49	
	風向 (16方位)	最多	南南東、南	南南東	北	南	—
	風速 (m/s)	期間平均値	1.3	1.0	0.7	1.2	—
		1時間値最高	5.9	3.6	5.6	5.4	

注) () 内の○は環境基準値等以下、×は環境基準値等超過を表す。

3. 水質の調査結果

【今年度調査結果】

生活環境の保全に関する項目(生活環境項目)については、以下の項目について環境基準を超過する結果がみられました。

人工湖における生活環境項目は、貯水量が 1,000 万立方メートル未満等の場合は環境基準の適用対象外であるため、調査対象の 4 湖沼はいずれも環境基準は適用されません。

調査項目 \ 調査場所		大屋沼	荒沼	大沼	田久保沼	環境基準	
生活環境項目	水素イオン濃度 pH (—)	7.5 (○)	7.5 (○)	9.5 (×)	8.3 (○)	6.5以上8.5以下	※1
	化学的酸素要求量 COD (mg/L)	5.1 (×)	9.1 (×)	10 (×)	10 (×)	5以下	
	浮遊物質 SS (mg/L)	1 (○)	5 (○)	15 (○)	15 (○)	15以下	
	溶存酸素量 DO (mg/L)	8.1 (○)	8.1 (○)	12 (○)	9.3 (○)	5以上	
	大腸菌群数 (MPN/100mL)	24000	13000	3300	13000	—	
	全窒素 (mg/L)	0.21 (○)	0.79 (○)	1.5 (×)	0.99 (○)	1以下	
	全燐 (mg/L)	0.007 (○)	0.052 (○)	0.11 (×)	0.060 (○)	0.1以下	
	ダイオキシン類 (pg-TEQ/L)	0.027 (○)	0.027 (○)	0.23 (○)	0.082 (○)	1以下	※2
水温 (℃)		30.7	30.7	30.1	32.0	—	

注) ()内の○は環境基準値以下、×は環境基準値超過を表す。

環境基準は下記のとおり。

※1 生活環境の保全に関する環境基準

水質汚濁に係る環境基準について(昭和 46 年 12 月 28 日 環境庁告示第 59 号)別表 2

(2)湖沼(天然湖沼及び貯水量が 1,000 万立方メートル以上であり、かつ、水の滞留時間が 4 日間以上である人工湖)における利用目的を「B 類型・V 類型 農業用水」としての基準値

※2 ダイオキシン類による大気汚染、水質汚濁(水底の底質の汚染を含む。)及び土壌の汚染に係る環境基準について(平成 11 年 12 月 27 日 環境庁告示第 68 号)

【環境基準超過項目】

・水素イオン濃度 (pH)

環境基準を超過した湖沼：大沼

超過理由：富栄養化により、植物プランクトンが増殖し、光合成量が増えたことにより、二酸化炭素が消費され、アルカリ化したものと考えられます。

・化学的酸素要求量 (COD)

環境基準を超過した湖沼：大屋沼、荒沼、大沼、田久保沼

超過理由：外部からの有機物の流入や、経年的に底質に蓄積した有機物の溶出等により、二酸化炭素が消費され、アルカリ化したものと考えられます。

・全窒素及び全磷

環境基準を超過した湖沼：大沼

超過理由：外部からの流入や経年的に底質に蓄積した化合物が溶出されたこと等により、二酸化炭素が消費され、アルカリ化したものと考えられます。



(大屋沼)



(荒沼)



(大沼)



(田久保沼)

【経年の調査結果】

〔大屋沼〕

大屋沼における平成 23 年度からの調査結果をみると、ダイオキシン類は環境基準を満足しているものの、生活環境項目は化学的酸素要求量(COD)で環境基準を超過する傾向がみられます。

また、各調査年度の水質濃度の推移をみると、荒沼、大沼及び田久保沼と比較すると、比較的安定していますが、今年度は、化学的酸素要求量(COD)が環境基準を超過し、大腸菌群数は経年で最も高い結果となっています。これは、外部からの水の流入等による影響が考えられます。

調査場所		大屋沼 稼働前					環境基準	
クリーンプラザよこて稼働状況		[冬季] 平成24年 2月9日	[夏季] 平成24年 8月27日	[夏季] 平成25年 8月26日	[夏季] 平成26年 8月27日	[夏季] 平成27年 8月26日		
調査項目								
生活環境項目	水素イオン濃度 pH (—)	6.6 (○)	7.2 (○)	8.4 (○)	7.3 (○)	6.9 (○)	6.5以上8.5以下	※1
	化学的酸素要求量 COD (mg/L)	2.8 (○)	3.6 (○)	4.8 (○)	3.7 (○)	5.4 (×)	5以下	
	浮遊物質 SS (mg/L)	1未満 (○)	1 (○)	2 (○)	1 (○)	9 (○)	15以下	
	溶存酸素量 DO (mg/L)	9.3 (○)	8.6 (○)	8.9 (○)	9.3 (○)	8.0 (○)	5以上	
	大腸菌群数 (MPN/100mL)	23	130	1300	1300	3300	—	
	全窒素 (mg/L)	0.65 (○)	0.25 (○)	0.37 (○)	0.41 (○)	0.84 (○)	1以下	
	全磷 (mg/L)	0.041 (○)	0.015 (○)	0.024 (○)	0.023 (○)	0.045 (○)	0.1以下	※2
	ダイオキシン類 (pg-TEQ/L)	0.063 (○)	0.052 (○)	0.055 (○)	0.049 (○)	0.13 (○)	1以下	
水温 (°C)		-0.2	28.8	27.2	24.2	21.6	—	
調査場所		大屋沼 稼働後					環境基準	
クリーンプラザよこて稼働状況		[夏季] 平成28年 9月14日	[夏季] 平成29年 8月24日	[夏季] 平成30年 8月20日	[夏季] 令和元年 8月21日	[夏季] 令和2年 8月18日		
調査項目								
生活環境項目	水素イオン濃度 pH (—)	7.5 (○)	7.2 (○)	8.1 (○)	7.3 (○)	7.2 (○)	6.5以上8.5以下	※1
	化学的酸素要求量 COD (mg/L)	4.3 (○)	3.8 (○)	4.5 (○)	4.9 (○)	3.2 (○)	5以下	
	浮遊物質 SS (mg/L)	1 (○)	1 (○)	2 (○)	1 (○)	1未満 (○)	15以下	
	溶存酸素量 DO (mg/L)	9.3 (○)	8.5 (○)	9.1 (○)	9.0 (○)	8.9 (○)	5以上	
	大腸菌群数 (MPN/100mL)	170	4900	4900	3300	1300	—	
	全窒素 (mg/L)	0.31 (○)	0.35 (○)	0.27 (○)	0.29 (○)	0.3 (○)	1以下	
	全磷 (mg/L)	0.018 (○)	0.015 (○)	0.012 (○)	0.015 (○)	0.018 (○)	0.1以下	※2
	ダイオキシン類 (pg-TEQ/L)	0.043 (○)	0.042 (○)	0.050 (○)	0.051 (○)	0.045 (○)	1以下	
水温 (°C)		23.9	26.4	27.0	30.5	28.8	—	
調査場所		大屋沼 稼働後				環境基準		
クリーンプラザよこて稼働状況		[夏季] 令和3年 8月19日	[夏季] 令和4年 8月22日	[夏季] 令和5年 8月22日	[夏季] 令和6年 8月21日			
調査項目								
生活環境項目	水素イオン濃度 pH (—)	7.9 (○)	7.2 (○)	7.4 (○)	7.5 (○)	6.5以上8.5以下	※1	
	化学的酸素要求量 COD (mg/L)	3.7 (○)	4.1 (○)	4.1 (○)	5.1 (×)	5以下		
	浮遊物質 SS (mg/L)	3 (○)	2 (○)	1 (○)	1 (○)	15以下		
	溶存酸素量 DO (mg/L)	10 (○)	8.6 (○)	8.2 (○)	8.1 (○)	5以上		
	大腸菌群数 (MPN/100mL)	790	1300	2400	24000	—		
	全窒素 (mg/L)	0.41 (○)	0.28 (○)	0.25 (○)	0.21 (○)	1以下		
	全磷 (mg/L)	0.020 (○)	0.012 (○)	0.010 (○)	0.007 (○)	0.1以下		
	ダイオキシン類 (pg-TEQ/L)	0.051 (○)	0.041 (○)	0.041 (○)	0.027 (○)	1以下	※2	
水温 (°C)		27.1	31.2	31.5	30.7	—		

注) ()内の○は環境基準値以下、×は環境基準値超過を表す。

環境基準は下記のとおり。

※1 生活環境の保全に関する環境基準

水質汚濁に係る環境基準について(昭和 46 年 12 月 28 日 環境庁告示第 59 号)別表 2

(2)湖沼(天然湖沼及び貯水量が 1,000 万立方メートル以上であり、かつ、水の滞留時間が 4 日間以上である人工湖)における利用目的を「B 類型・V 類型 農業用水」としての基準値

※2 ダイオキシン類による大気汚染、水質汚濁(水底の底質の汚染を含む。)及び土壌の汚染に係る環境基準について(平成 11 年 12 月 27 日 環境庁告示第 68 号)

〔荒 沼〕

荒沼における平成 23 年度からの調査結果をみると、ダイオキシン類は環境基準を満足しているものの、生活環境項目は全ての項目で環境基準を超過する傾向がみられます。

また、各調査年度の水質濃度の推移をみると、施設稼働前後ともに変化が大きくなっています。これは、外部からの水の流入、底質に蓄積した有機物の溶出、植物プランクトンの増加等による影響と考えられます。

調査場所		荒 沼					環境基準	
クリーンプラザよこて稼働状況		稼働前						
調査日		[冬季] 平成24年 2月9日	[夏季] 平成24年 8月27日	[夏季] 平成25年 8月26日	[夏季] 平成26年 8月27日	[夏季] 平成27年 8月26日		
調査項目								
生活環境項目	水素イオン濃度 pH (-)	6.3 (×)	6.4 (×)	7.4 (○)	7.5 (○)	9.2 (×)	6.5以上8.5以下	※1
	化学的酸素要求量 COD (mg/L)	5.7 (×)	10 (×)	10 (×)	11 (×)	13 (×)	5以下	
	浮遊物質 SS (mg/L)	1未満 (○)	11 (○)	8 (○)	5 (○)	24 (×)	15以下	
	溶存酸素量 DO (mg/L)	6.5 (○)	4.8 (×)	8.8 (○)	10 (○)	10 (○)	5以上	
	大腸菌群数 (MPN/100mL)	33	1300	2400	7900	7000	—	
	全窒素 (mg/L)	0.90 (○)	0.78 (○)	0.74 (○)	1.0 (○)	2.0 (×)	1以下	
	全磷 (mg/L)	0.032 (○)	0.062 (○)	0.050 (○)	0.070 (○)	0.11 (×)	0.1以下	
	ダイオキシン類 (pg-TEQ/L)	0.10 (○)	0.054 (○)	0.051 (○)	0.049 (○)	0.064 (○)	1以下	※2
	水温 (℃)	-0.3	32.0	28.5	26.0	23.1	—	

調査場所		荒沼					環境基準	
クリーンプラザよこて稼働状況		稼働後						
調査日		[夏季] 平成28年 9月14日	[夏季] 平成29年 8月24日	[夏季] 平成30年 8月20日	[夏季] 令和元年 8月21日	[夏季] 令和2年 8月18日		
調査項目								
生活環境項目	水素イオン濃度 pH (-)	9.0 (×)	7.1 (○)	7.5 (○)	7.0 (○)	7.4 (○)	6.5以上8.5以下	※1
	化学的酸素要求量 COD (mg/L)	18 (×)	6.9 (×)	7.8 (×)	7.9 (×)	5.1 (×)	5以下	
	浮遊物質 SS (mg/L)	22 (×)	4 (○)	5 (○)	4 (○)	1未満 (○)	15以下	
	溶存酸素量 DO (mg/L)	12 (○)	8.8 (○)	8.3 (○)	9.3 (○)	9.4 (○)	5以上	
	大腸菌群数 (MPN/100mL)	13000	3300	790	1700	7900	—	
	全窒素 (mg/L)	2.8 (×)	0.52 (○)	0.58 (○)	0.59 (○)	0.33 (○)	1以下	
	全磷 (mg/L)	0.16 (×)	0.025 (○)	0.040 (○)	0.039 (○)	0.035 (○)	0.1以下	
	ダイオキシン類 (pg-TEQ/L)	0.095 (○)	0.041 (○)	0.045 (○)	0.049 (○)	0.045 (○)	1以下	※2
	水温 (℃)	24.0	27.0	25.5	29.5	29.5	—	

調査場所		荒沼				環境基準	
クリーンプラザよこて稼働状況		稼働後					
調査日		[夏季] 令和3年 8月19日	[夏季] 令和4年 8月22日	[夏季] 令和5年 8月22日	[夏季] 令和6年 8月21日		
調査項目							
生活環境項目	水素イオン濃度 pH (-)	8.0 (○)	7.3 (○)	8.9 (×)	7.5 (○)	6.5以上8.5以下	※1
	化学的酸素要求量 COD (mg/L)	7.7 (×)	6.0 (×)	9.5 (×)	9.1 (×)	5以下	
	浮遊物質 SS (mg/L)	11 (○)	3 (○)	6 (○)	5 (○)	15以下	
	溶存酸素量 DO (mg/L)	10 (○)	10 (○)	9.0 (○)	8.1 (○)	5以上	
	大腸菌群数 (MPN/100mL)	170	2400	2400	13000	—	
	全窒素 (mg/L)	0.89 (○)	0.50 (○)	0.95 (○)	0.79 (○)	1以下	
	全磷 (mg/L)	0.025 (○)	0.035 (○)	0.046 (○)	0.052 (○)	0.1以下	
	ダイオキシン類 (pg-TEQ/L)	0.048 (○)	0.044 (○)	0.027 (○)	0.027 (○)	1以下	※2
	水温 (℃)	27.3	31.5	31.3	30.7	—	

注) ()内の○は環境基準値以下、×は環境基準値超過を表す。

環境基準は下記のとおり。

※1 生活環境の保全に関する環境基準

水質汚濁に係る環境基準について(昭和 46 年 12 月 28 日 環境庁告示第 59 号)別表 2

(2)湖沼(天然湖沼及び貯水量が 1,000 万立方メートル以上であり、かつ、水の滞留時間が 4 日間以上である人工湖)における利用目的を「B 類型・V 類型 農業用水」としての基準値

※2 ダイオキシン類による大気汚染、水質汚濁(水底の底質の汚染を含む。)及び土壌の汚染に係る環境基準について(平成 11 年 12 月 27 日 環境庁告示第 68 号)

〔大 沼〕

大沼における平成 23 年度からの調査結果をみると、ダイオキシン類は環境基準を満足しているものの、生活環境項目は水素イオン濃度(pH)、化学的酸素要求量(COD)、浮遊物質(SS)、全窒素及び全磷で環境基準を超過する傾向がみられます。

また、各調査年度の水質濃度の推移をみると、施設稼働前後ともに変化が大きくなっています。これは、外部からの水の流入、底質に蓄積した有機物の溶出、植物プランクトンの増加等による影響と考えられる。

調査場所		大 沼					環境基準	
クリーンプラザよこて稼働状況		稼働前						
調査日		[冬季] 平成24年 2月9日	[夏季] 平成24年 8月27日	[夏季] 平成25年 8月26日	[夏季] 平成26年 8月27日	[夏季] 平成27年 8月26日		
調査項目								
生活環境項目	水素イオン濃度 pH (—)	6.9 (○)	7.2 (○)	8.5 (○)	7.8 (○)	7.7 (○)	6.5以上8.5以下	※1
	化学的酸素要求量 COD (mg/L)	3.6 (○)	7.8 (×)	7.4 (×)	8.0 (×)	6.8 (×)	5以下	
	浮遊物質 SS (mg/L)	4 (○)	13 (○)	11 (○)	11 (○)	13 (○)	15以下	
	溶存酸素量 DO (mg/L)	12 (○)	8.3 (○)	10 (○)	11 (○)	10 (○)	5以上	
	大腸菌群数 (MPN/100mL)	3300	7900	4900	7900	24000	—	
	全窒素 (mg/L)	1.3 (×)	0.68 (○)	0.82 (○)	0.96 (○)	1.3 (×)	1以下	
	全磷 (mg/L)	0.049 (○)	0.088 (○)	0.080 (○)	0.10 (○)	0.078 (○)	0.1以下	※2
ダイオキシン類 (pg-TEQ/L)		0.065 (○)	0.18 (○)	0.077 (○)	0.13 (○)	0.16 (○)	1以下	
水温 (℃)		0.0	31.5	27.0	22.8	20.2	—	

調査場所		大沼					環境基準	
クリーンプラザよこて稼働状況		稼働後						
調査日		[夏季] 平成28年 9月14日	[夏季] 平成29年 8月24日	[夏季] 平成30年 8月20日	[夏季] 令和元年 8月21日	[夏季] 令和2年 8月18日		
調査項目								
生活環境項目	水素イオン濃度 pH (—)	9.1 (×)	6.9 (○)	9.3 (×)	7.8 (○)	7.1 (○)	6.5以上8.5以下	※1
	化学的酸素要求量 COD (mg/L)	7.9 (×)	8.4 (×)	8.7 (×)	5.8 (×)	5.0 (○)	5以下	
	浮遊物質 SS (mg/L)	20 (×)	23 (×)	13 (○)	9 (○)	12 (○)	15以下	
	溶存酸素量 DO (mg/L)	11 (○)	7.6 (○)	12 (○)	11 (○)	10 (○)	5以上	
	大腸菌群数 (MPN/100mL)	490	35000	7900	7900	13000	—	
	全窒素 (mg/L)	1.0 (○)	1.1 (×)	1.4 (×)	1.0 (○)	1.1 (×)	1以下	
	全磷 (mg/L)	0.092 (○)	0.11 (×)	0.062 (○)	0.068 (○)	0.054 (○)	0.1以下	※2
ダイオキシン類 (pg-TEQ/L)		0.20 (○)	0.34 (○)	0.077 (○)	0.12 (○)	0.30 (○)	1以下	
水温 (℃)		24.1	26.4	25.5	28.5	27.0	—	

調査場所		大沼				環境基準	
クリーンプラザよこて稼働状況		稼働後					
調査日		[夏季] 令和3年 8月19日	[夏季] 令和4年 8月22日	[夏季] 令和5年 8月22日	[夏季] 令和6年 8月21日		
調査項目							
生活環境項目	水素イオン濃度 pH (—)	7.8 (○)	8.5 (○)	9.4 (×)	9.5 (×)	6.5以上8.5以下	※1
	化学的酸素要求量 COD (mg/L)	5.7 (○)	6.2 (○)	9.7 (×)	10 (×)	5以下	
	浮遊物質 SS (mg/L)	17 (×)	9 (○)	10 (○)	15 (○)	15以下	
	溶存酸素量 DO (mg/L)	11 (○)	10 (○)	9.9 (○)	12 (○)	5以上	
	大腸菌群数 (MPN/100mL)	3300	2200	1100	3300	—	
	全窒素 (mg/L)	1.0 (○)	1.2 (×)	1.2 (×)	1.5 (×)	1以下	
	全磷 (mg/L)	0.043 (○)	0.053 (○)	0.11 (×)	0.11 (×)	0.1以下	※2
ダイオキシン類 (pg-TEQ/L)		0.30 (○)	0.15 (○)	0.23 (○)	0.23 (○)	1以下	
水温 (℃)		27.2	31.2	31.4	30.1	—	

注) ()内の○は環境基準値以下、×は環境基準値超過を表す。

環境基準は下記のとおり。

※1 生活環境の保全に関する環境基準

水質汚濁に係る環境基準について(昭和 46 年 12 月 28 日 環境庁告示第 59 号)別表 2

(2)湖沼(天然湖沼及び貯水量が 1,000 万立方メートル以上であり、かつ、水の滞留時間が 4 日間以上である人工湖)における利用目的を「B 類型・V 類型 農業用水」としての基準値

※2 ダイオキシン類による大気汚染、水質汚濁(水底の底質の汚染を含む。)及び土壌の汚染に係る環境基準について(平成 11 年 12 月 27 日 環境庁告示第 68 号)

〔田久保沼〕

田久保沼における平成 23 年度からの調査結果をみると、ダイオキシン類は環境基準を満足しているものの、生活環境項目は水素イオン濃度(pH)、化学的酸素要求量(COD)、浮遊物質(SS)、溶存酸素量(DO)及び全窒素で環境基準を超過する傾向がみられます。

また、各調査年度の水質濃度の推移をみると、施設稼働前後ともに変化が大きくなっています。これは、外部からの水の流入、底質に蓄積した有機物の溶出、植物プランクトンの増加等による影響と考えられます。

調査場所		田久保沼					環境基準	
クリーンプラザよこて稼働状況		稼働前						
調査日		[冬季] 平成24年 2月9日	[夏季] 平成24年 8月27日	[夏季] 平成25年 8月26日	[夏季] 平成26年 8月27日	[夏季] 平成27年 8月26日		
調査項目								
生活環境項目	水素イオン濃度 pH (—)	6.2 (×)	6.9 (○)	7.4 (○)	7.1 (○)	8.0 (○)	6.5以上8.5以下	※1
	化学的酸素要求量 COD (mg/L)	3.0 (○)	7.1 (×)	7.7 (×)	6.8 (×)	9.1 (×)	5以下	
	浮遊物質 SS (mg/L)	4 (○)	13 (○)	18 (×)	12 (○)	41 (×)	15以下	
	溶存酸素量 DO (mg/L)	5.1 (○)	5.0 (○)	8.2 (○)	7.3 (○)	9.2 (○)	5以上	
	大腸菌群数 (MPN/100mL)	7.8	4900	13000	13000	92000	—	
	全窒素 (mg/L)	0.88 (○)	0.58 (○)	0.53 (○)	0.88 (○)	1.1 (×)	1以下	※2
	全磷 (mg/L)	0.022 (○)	0.069 (○)	0.061 (○)	0.069 (○)	0.079 (○)	0.1以下	
	ダイオキシン類 (pg-TEQ/L)	0.18 (○)	0.21 (○)	0.096 (○)	0.20 (○)	0.18 (○)	1以下	※2
水温 (℃)		0.0	32.5	29.0	24.7	22.0	—	

調査場所		田久保沼					環境基準	
クリーンプラザよこて稼働状況		稼働後						
調査日		[夏季] 平成28年 9月14日	[夏季] 平成29年 8月24日	[夏季] 平成30年 8月20日	[夏季] 令和元年 8月21日	[夏季] 令和2年 8月18日		
調査項目								
生活環境項目	水素イオン濃度 pH (—)	6.7 (○)	7.1 (○)	7.2 (○)	7.0 (○)	6.9 (○)	6.5以上8.5以下	※1
	化学的酸素要求量 COD (mg/L)	6.9 (×)	6.4 (×)	5.5 (×)	6.5 (×)	5.6 (×)	5以下	
	浮遊物質 SS (mg/L)	7 (○)	25 (×)	9 (○)	5 (○)	7 (○)	15以下	
	溶存酸素量 DO (mg/L)	4.0 (×)	8.4 (○)	8.5 (○)	8.5 (○)	8.5 (○)	5以上	
	大腸菌群数 (MPN/100mL)	4900	92000	4900	2400	13000	—	
	全窒素 (mg/L)	0.41 (○)	0.71 (○)	0.55 (○)	0.64 (○)	0.66 (○)	1以下	※2
	全磷 (mg/L)	0.023 (○)	0.06 (○)	0.023 (○)	0.031 (○)	0.036 (○)	0.1以下	
	ダイオキシン類 (pg-TEQ/L)	0.079 (○)	0.19 (○)	0.062 (○)	0.12 (○)	0.10 (○)	1以下	※2
水温 (℃)		24.7	27.2	28.0	31.5	29.0	—	

調査場所		田久保沼				環境基準	
クリーンプラザよこて稼働状況		稼働後					
調査日		[夏季] 令和3年 8月19日	[夏季] 令和4年 8月22日	[夏季] 令和5年 8月22日	[夏季] 令和6年 8月21日		
調査項目							
生活環境項目	水素イオン濃度 pH (—)	7.9 (○)	7.1 (○)	8.2 (○)	8.3 (○)	6.5以上8.5以下	※1
	化学的酸素要求量 COD (mg/L)	6.8 (×)	7.1 (×)	8.8 (×)	10 (×)	5以下	
	浮遊物質 SS (mg/L)	22 (×)	3 (○)	12 (○)	15 (○)	15以下	
	溶存酸素量 DO (mg/L)	11 (○)	11 (○)	9.3 (○)	9.3 (○)	5以上	
	大腸菌群数 (MPN/100mL)	3300	3300	24000	13000	—	
	全窒素 (mg/L)	0.80 (○)	0.47 (○)	0.93 (○)	0.99 (○)	1以下	※2
	全磷 (mg/L)	0.040 (○)	0.045 (○)	0.086 (○)	0.060 (○)	0.1以下	
	ダイオキシン類 (pg-TEQ/L)	0.22 (○)	0.051 (○)	0.21 (○)	0.082 (○)	1以下	※2
水温 (℃)		32.0	31.2	31.6	32.0	—	

注) ()内の○は環境基準値以下、×は環境基準値超過を表す。

環境基準は下記のとおり。

※1 生活環境の保全に関する環境基準

水質汚濁に係る環境基準について(昭和 46 年 12 月 28 日 環境庁告示第 59 号)別表 2

(2)湖沼(天然湖沼及び貯水量が 1,000 万立方メートル以上であり、かつ、水の滞留時間が 4 日間以上である人工湖)における利用目的を「B 類型・V 類型 農業用水」としての基準値

※2 ダイオキシン類による大気汚染、水質汚濁(水底の底質の汚染を含む。)及び土壌の汚染に係る環境基準について(平成 11 年 12 月 27 日 環境庁告示第 68 号)

4. 土壌の調査結果

【今年度調査結果】

今年度の調査結果は、環境基準を満足していました。

採取年月日：令和6年11月13日

計量項目	栄小学校グラウンド	環境基準
ダイオキシン類 (pg-TEQ/L)	0.56	1,000 以下※

※ ダイオキシン類による大気汚染、水質汚濁(水底の底質の汚染を含む。)及び土壌の汚染に係る環境基準について(平成11年12月27日 環境庁告示第68号)



全景(栄小学校グラウンド)



採取状況

【経年の調査結果】

平成23年度からの調査結果をみると、ダイオキシン類は、環境基準を満足する低濃度で推移しています。

〔栄小学校グラウンド〕

クリーンプラザよこて稼働状況		稼働前					環境基準
調査項目	調査日	[冬期] 平成24年 2月10日	[秋期] 平成24年 11月7日	[秋期] 平成25年 11月6日	[秋期] 平成26年 11月6日	[秋期] 平成27年 11月5日	
		0.51	0.39	0.15	0.29	0.47	
ダイオキシン類 (pg-TEQ/g)							1,000以下※

クリーンプラザよこて稼働状況		稼働後					環境基準
調査項目	調査日	[秋期] 平成28年 11月7日	[秋期] 平成29年 11月6日	[秋期] 平成30年 11月6日	[秋期] 令和元年 11月6日	[秋期] 令和2年 11月5日	
		0.56	0.58	0.47	0.23	0.42	
ダイオキシン類 (pg-TEQ/g)							1,000以下※

クリーンプラザよこて稼働状況		稼働後				環境基準
調査項目	調査日	[秋期] 令和3年 11月4日	[秋期] 令和4年 11月9日	[秋期] 令和5年 11月1日	[秋期] 令和6年 11月13日	
		0.15	0.67	0.59	0.56	
ダイオキシン類 (pg-TEQ/g)						1,000以下※

※ ダイオキシン類による大気汚染、水質汚濁(水底の底質の汚染を含む。)及び土壌の汚染に係る環境基準について(平成11年12月27日 環境庁告示第68号)

5. ため池底質の調査結果

今年度の調査結果は、流入側、流出側ともに、環境基準を満足していました。

【今年度調査結果】

採取年月日：令和 6 年 8 月 21 日

計量項目	荒沼(流入側)	荒沼(流出側)	基準値
ダイオキシン類(pg-TEQ/L)	13	1.3	150 以下※

※ ダイオキシン類による大気汚染、水質汚濁(水底の底質の汚染を含む。)及び土壌の汚染に係る環境基準について(平成 11 年 12 月 27 日 環境庁告示第 68 号)



採取状況(荒沼(流入側))



採取状況(荒沼(流出側))

【経年の調査結果】

平成 24 年度からの調査結果をみると、ダイオキシン類は、流入側及び流出側ともに環境基準を満足する低濃度で推移しています。

〔流入側〕

調査場所		荒沼(流入側)				環境基準
クリーンプラザよこて稼働状況		稼働前				
調査日		[夏季] 平成24年 8月27日	[夏季] 平成25年 8月26日	[夏季] 平成26年 8月27日	[夏季] 平成27年 8月26日	
調査項目						
ダイオキシン類 (pg-TEQ/g)		26	16	21	13	150以下※
調査場所		荒沼(流入側)				環境基準
クリーンプラザよこて稼働状況		稼働後				
調査日		[夏季] 平成28年 9月14日	[夏季] 平成29年 8月24日	[夏季] 平成30年 8月20日	[夏季] 令和元年 8月21日	
調査項目						
ダイオキシン類 (pg-TEQ/g)		15	12	13	19	150以下※
調査場所		荒沼(流入側)				環境基準
クリーンプラザよこて稼働状況		稼働後				
調査日		[夏季] 令和2年 8月18日	[夏季] 令和3年 8月19日	[夏季] 令和4年 8月22日	[夏季] 令和5年 8月22日	
調査項目						
ダイオキシン類 (pg-TEQ/g)		11	17	12	12	150以下※
調査場所		荒沼(流入側)		環境基準		
クリーンプラザよこて稼働状況		稼働後				
調査日		[夏季] 令和6年 8月21日				
調査項目						
ダイオキシン類 (pg-TEQ/g)		13		150以下※		

※ ダイオキシン類による大気汚染、水質汚濁(水底の底質汚染を含む。)及び土壌汚染に係る環境基準について(平成 11 年 12 月 27 日 環境庁告示第 68 号)

〔流出側〕

調査場所		荒沼(流出側)				環境基準
クリーンプラザよこて稼働状況		稼働前				
調査日		[夏季] 平成24年 8月27日	[夏季] 平成25年 8月26日	[夏季] 平成26年 8月27日	[夏季] 平成27年 8月26日	
調査項目						
ダイオキシン類 (pg-TEQ/g)		18	21	7.9	3.0	150以下※
調査場所		荒沼(流出側)				環境基準
クリーンプラザよこて稼働状況		稼働後				
調査日		[夏季] 平成28年 9月14日	[夏季] 平成29年 8月24日	[夏季] 平成30年 8月20日	[夏季] 令和元年 8月21日	
調査項目						
ダイオキシン類 (pg-TEQ/g)		17	1.7	0.72	0.64	150以下※
調査場所		荒沼(流出側)				環境基準
クリーンプラザよこて稼働状況		稼働後				
調査日		[夏季] 令和2年 8月18日	[夏季] 令和3年 8月19日	[夏季] 令和4年 8月22日	[夏季] 令和5年 8月22日	
調査項目						
ダイオキシン類 (pg-TEQ/g)		18	2.8	4.0	6.7	150以下※
調査場所		荒沼(流出側)		環境基準		
クリーンプラザよこて稼働状況		稼働後				
調査日		[夏季] 令和6年 8月21日				
調査項目						
ダイオキシン類 (pg-TEQ/g)		1.3		150以下※		

※ ダイオキシン類による大気汚染、水質汚濁(水底の底質汚染を含む。)及び土壌汚染に係る環境基準について(平成 11 年 12 月 27 日 環境庁告示第 68 号)